

**平成25年度「県と市町の地域づくり連携・協働協議会」(地域会議)
1対1対談(紀北町) 会議録**

1. 開催日時

平成25年8月1日(木) 13時00分～14時00分

2. 開催場所

紀北町 矢口浦集会所

(紀北町海山区矢口浦323番地1)

現地視察 大白公園多目的グラウンド

3. 対談市町長名

紀北町(紀北町長 尾上 壽一)

4. 対談項目

- 1 (1) 大白公園多目的グラウンドの改善について 現地視察項目
- (2) スポーツ振興への支援について(大白地区) 現地視察項目
- 2 大雨時の冠水対策について
- 3 県道長島港の1.5車線化
- 4 林道野又越線について
- 5 高速道路開通に伴う通過点にならないための取組に対する支援

5. 会議録

(1) 開会あいさつ

知事 今日、大変お忙しい中、お時間をいただきありがとうございます。

この1対1対談ですが、主に26年度予算に向けて、その編成の前に町長のお話を伺って、それを反映できるかはしっかりしていくという趣旨で、今年3年目の取組であります。

まず、今日の対談に入る前に、少し前の話ですが、先般5月には、「みどりの愛護のつどい」で皇太子殿下におみえいただいたときには、紀北町におかれては万全のおもてなし、お出迎えをさせていただき、私、後に侍従長のところにお礼に上がりましたが、その際も本当に地域の皆さんが温かくお迎えいただいたということ、それから、滞りなく行事を進めることができたことに大変感謝をしておられました。私どもも大変光栄に思ったところであります。改めてそのことについて感謝申し上げます。

今日は、お話をいろいろ議論していく中で、できることとできないこととありますが、有意義な時間としたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願

いたします。

紀北町長 今日、知事大変お忙しいところ、また、暑い中、お越しいただきありがとうございます。

先ほどは現場視察とはいえ、本当に暑い中、お歩きいただきましてありがとうございます。大白グラウンドにつきましては、本当に素晴らしいものを作ってくださいました。ただ、先ほど少し申し上げましたが、使ってみて分かることがありますので、そういった部分にはご配慮をいただきたいと思いますので、どうかよろしくお願いを申し上げます。

それと、先ほど知事からお礼をおっしゃっていただきました「みどりの愛護のつどい」ですが、本当に紀北町を選んでいただきましてありがとうございます。その際、皇太子殿下に燈籠製作現場をご覧になっていただいた燈籠祭はこの間、大盛況に終わらせていただきました。皇太子殿下や知事にもご覧になっていただいたということで、みんながやる気出しまして。今回、中学生もたくさん集まりまして、折り鶴を折ったり手伝いをしていただいたので、紀北町民にとって大変刺激になりました。

それと、馬越峠も歩いていただいて、これからは皇太子殿下や知事にご覧いただいたところを我々としては大切にしながら守っていきたいと思っております。

それと、お礼が続きますが、三浦、矢口の漁港は2箇所同時に工事をしていただいております。普通、こんな小さな町ですと1箇所の採択だと思えますが、県のご配慮をいただき2箇所同時に進めさせていただいております。

それと、県代行ということでやっていただいて、いろいろと難しい技術や問題もいろいろ県の方にお助けいただいて進めていただいておりますことにお礼を申し上げます。

それと、河床土砂撤去、私、毎回、東紀州のサミット会議や1対1対談でもお話させていただいて、新たなシステムというか、県土全部のそういったものを見直しながら取り組んでいただくということで本当にありがとうございます。我々としましても、今、水がなくなってなおさら砂利の堆積が目立っております。逆にこれからの台風シーズン、集中豪雨とかありますので、これらを少しでも早くすることで、県のほうでそういった手段をつくっていただいて、今年度から取組をしていただいて、紀北町も計画の中に入れていただいております。これを厚くお礼を申し上げます。

これからもいろいろとご迷惑をおかけしますが、どうかよろしくお願いを申し上げます。本日はありがとうございます。

(2) 対談

1 (1) 大白公園多目的グラウンドの改善について (2) スポーツ振興への支援について

知 事 大白公園ですが、大きく3つお話があったと思います。1つは、夜間照明の話、2点目がグラウンドの土の話、3点目が自然回復ゾーンの話です。まず、今回の大白公園が今年の4月30日から供用開始ということで、今、供用をスタートして、町長もおっしゃったように使ってみて分かることというのが今、少しずつ出てきているかと思っています。

夜間照明の件につきましては、一応都市公園整備ということと管理もありますので、設置費用とか維持管理費用とかそういう面がありますので、紀北町さんと引き続き協議しながら検討したいと思っています。

土の改善につきましては、今聞いているところでは、施工後間もないので柔らかくて、安定するまで年数を要するということのようなので、基本路線としては、今後の状況を注視するということです。ただ、実際にああやって凸凹になっているのも現実ですし、先ほどの町長のお話によれば、地元の人なんかもこういうふうにしたらいいんじゃないかと、あまりお金かからないけど、こういう方法あると言っていたらいいアイデアもあるようですので、グラウンドを施工した専門業者の意見とか、そういうことを紀北町さん等のアイデアも踏まえて、土の改善、当面の対応は検討をしていきたいと思っています。

それから、自然回復ゾーンですが、どういう答えがいいのかなかなか難しいところです。どういうふうに使っていくかという中身をよく一緒に相談をさせていただいたうえで、これまでの経緯やいろんな考え方もあるでしょうし、とはいえ、こういうのができて、今後に向かってどういうものであったほうがいいのか、先ほど町長から16年のときの構想の図などを見せていただきましたが、その図からでさえ10年経っているわけですので、どういう使い方がいいのか改めて相談させていただきたいと思っています。例えばスポーツ施設にしていくのであれば、使えるかどうかわかりませんが、例えばtotoの助成金とか、県や町が出す以外の財源なんかもいろいろオプションとして考え得ると思います。まずは中身をどういうふうにしていくかということ、県も都市公園を整備した担当部局からすれば、県としては終わりですということかもしれないので、新たに関係部局とも話をしながら相談をするような形にしたいと思っていますので、よろしく願いいたします。

紀北町長 今後に向かってという言葉を一言いただいたことは、本当に心強く思います。知事がおっしゃったように、今後どうなるかというのは別ですが、これで打ち切りということではなく、少し今後のことについて考えていただけるという思いを語っていただいたので、これはこれで本当にありがたいと思います。私共もこれから活用していく、それから、先ほど少し申し上げましたが、県の北勢の方が大変多くみえていらっしゃいます。そういった意味では、地域のスポーツ施設ということではなく、県民のための、県のため、東紀州の基地として、本当にロケーションは素敵だと思いますので、そういった意味の観点から24年度で終了ではなく、また新たなステップとしての整備を一緒になって話を聞いていただければありがたいという思いでございます。

あと、1点だけ。サブグラウンドのシカのネットを、砂の色が白いのでシカの糞とかがよく目立ちます。サッカーは苦にならないんですが、ソフトですと、そこをやるというのが大変なので、普通のしっかりしたものじゃなくてもシカが入れないような形でいいので、そういうところも検討していただきたいと。ただ申し上げるのは、大白だけでも約30億円かけていただいております。ここまでしていただいて、町としてはありがたいんですが、やはり人間というのはきれいになれば、またもっと多くというのが一つあるので、そこら辺は今後の我々のお話も聞いていただくスタンスを取っていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

2 大雨時の冠水対策について

紀北町長 紀北町は平成16年に大水害を受けております。それで、船津川も100億からのお金で県のほうにやっていただいて、本当にありがたいと思います。今年度で樋門も水門もできあがりますので本当にありがたいところですが、いずれも低いところであろうかと思っております。堤防に囲まれた中でその中に住居が建っている状況で、排水機場の問題です。排水機場が湛水防除の農用地の事業で整備しています。それらが紀北町の一番古いのですと、42年経っております。そういう中、機械ものの42年ということなので、本当に長寿命化を図りながらどんどんやってきましたが、2年前に比較的新しい山本排水機場、平成元年につくったのがセルモーターが不具合で焼けました。修理しようとしたら、部品がないと、日本に2個しかないということでした。そのとき、取った手段が、建設業者に水中ポンプを放り込んでいただいて、津のほうから国交省の排水ポンプ車に来ていただいて、なんとか水位をキープでき

たんですが、私共も岡山から新幹線を使って夜間にセルモーターを運びました。国交省のご配慮で、荷坂峠が通行止めでしたが、来ていただいてセルモーターを変えた途端に水嵩がぐっと減りました。そういうこともあって、部品が全国で1個2個しかないという状況の中で老朽化しているんですが、宅地化してしまって湛水防除の事業では手が打てなくなっているんですね。

そういう中で、あとは起債とかそういったものしかないということです。これは県というか、国に対してもお願いしていただきたいのですが、都市部は公共下水道などを合わせて大きな事業もできると思いますが、田舎は補助や手段がないんです。その中で1秒、1トン、1億と言われていています。今、うちは2トンから3トンの排水機場が多いんですが、それらもこういう状態なので更新したいということで、去年もずっと調べていただいて、長寿命化、今年度来年度にかけて一番古い住宅の一番多いところを替えようとするんですが、最近、そういう中で紀北町にも8つそういう排水機場がありますが、そうすると、1か所で3億、5億になったときに町ばかりで40億です。もし5億にしても。そういう中、現実には湛水防除ではない中で排水をやっつけていかなきゃいけないということで、何ら国の手立てがないんです。大都市はある。農地はまだある。では、農地から集約して宅地ができてきたところは、じゃあどうなるかという、その辺が非常に遅れていると思うので、県へのお願いというより、国に県から地方ではこういう現状ということをお願いしていただきたい。

また、特殊性もありますので、技術の面や補助の問題、県がされるとか国がされるとかという問題もあろうかと思うんですが、そういった意味でお力を貸していただきたい思いです。

知事 我々も町長おっしゃったように、稼働から20年以上経過して老朽化していて、最近の雨の状況とかでその流入状況も変わってきていることも理解しております。農業農村整備事業の更新事業というのを活用すれば、排水能力の回復が可能になっているようなので、その更新で今、当面ということではその更新事業が活用できるかどうか、担当とご相談をしてご検討いただければと思います。また、国に対して現行制度の変更、改革、改善の部分について、具体的にどの辺のどういう要件がどうなのかという部分を、私、詳細が分からないので、いずれにしても制度を所管している国へいろんな提言する機会もありますから、それに合わせてこういう制度をこういうふうに変えてほしいという話や、実情に応じて提言はしていきたいと思います。これも詳細に担当部同士で詰めさせていただければと思いますので、よろしく願いします。

紀北町長 農地が受益面積の2分の1以上なければいけないという制限もある
そうなので、この田舎でも集約しているところは、完全に農村関係のは制度
に合わないんですね。だから、そういうのが地方では結構起きているわけ
です。都市部に大きな公共下水道にして排水機場の補助があるのはいいんです
が、さっき8箇所と言いましたが、そのうち湛水の農業農村の事業でできる
のは。紀北町では2、3箇所だと思います。ですから、ほとんど人の多いと
ころほどできなくなってしまうので、喫緊の課題で、とにかく補助が
なくてもやらなければということで、来年度、そういうことに取り組んでい
きたいと思っています。これがいくつもありますので、もしそういうのが今
後、国なり県である程度の制度を作っていただきたいと思っていますので、それ
もよろしく願いいたします。

3 県道長島港の1.5車線化

紀北町長 これもお礼からまず申し上げたいと思います。422号の十須地区、そ
この拡幅が生活道路のところをしていただいて、前の1対1対談でお話させ
ていただいて、早速、取り組んでいただいた地区は着々と整備をしていただ
いております。その十須地区の民家へ行くまでも1箇所狭いところがあった
んです、国道の。その拡幅もしていただいて、道路啓開基地をその横に県
で整備をしていただくお話で、これも地域の皆さんが行政懇談会等でいつも
お礼を言っていたいただきますので、住民の皆さんになり代わりお礼を申し上
げます。

という中で、県道といっても長島港線、おそらく今まで手が付けられな
かったと思います。住宅がびっしり並んでいるので。だから、拡幅敷地的には
詰めてもらわなきゃ。過疎化とかでいろんなところで空家も増えてきている
のも事実なので、そういうところを1.5車線にさせていただきたい。狭い部分
の延長が約160メートルぐらいありまして、ここが特に狭くて、こちらは一
方通行です。ここが対面ですが、ここで待たなきゃいけないような形になっ
ています。こういったところも随時、ただちにと言う人もいらっしゃいます
ので、そういった余裕が出たら、もしもよろしかったら進めていただきたい。

あと、南浦海山線といって尾鷲へ抜ける県道も狭い区間があります。あそ
こもバックしなきゃ対向できないというようなところもありますので、そう
いった部分をできるところから結構ですが、少しずつでも1.5車線化をお
願いたします。

知 事 ご要望がありました県道長島港線のところですが、町長はよくご存知いただけてますが、大規模な拡幅だけじゃなくて、柔軟整備と言いまして待避場を作って当面できる、それで住民の皆さんのニーズに合わせる整備も2、3年前ぐらいからやり始めておるところです。

今、お示しいただいた場所は人家が密集しているのもあって、車がすれ違うための待避場を作る整備であったとしても、家屋の補償など結構事業費が想定されることもあります。どういうふうに整備していくのがいいか、紀北町さんとよく協議をさせていただければと思っておりますので、すぐ来年度というわけにはいきませんが、そういう協議をよくさせていただいて、どうやればそういう事業費も抑えながら、住民の皆さんに安心を感じていただきながらできるか協議させていただければと思っております。もう1件もそうだと思いますので、よろしくお願ひします。

4 林道野又越線について

紀北町長 これも林道を広げてやっていただいているので、本当にありがたい話の中で、どうも岩目が悪いらしいです、土質とか。それで、崩落という形になったんだと思いますが、今、こちらのほうで一所懸命手当をさせていただいております。その手当を一刻も早くやっていただきたいというお願いですので、これもいろいろ岩目とか土の質を十分配慮していただいて、今後、こういった崩れがないようお願いしたい。我々としては本当に配慮していただいて、県と町との往復も考えていただいておりますので、本当に農林の方には大変お世話になっております。ただ、我々の力ではできないようなことですので、これも県さんのお力を借りるしかないということで、よろしくお願ひします。

知 事 小規模な崩落とかによる手当の部分については、国の災害復旧事業などの対象とならない小規模な事業に対しては、県単の林道事業で支援をしているそうですので、協議をさせていただいていると思います。ここの部分をこういうふうにとりう形で具体的に県の尾鷲の農林事務所とご相談いただければと思いますので、よろしくお願ひいたします。

紀北町長 事務所のほうも来ていただいて、私もお話はさせていただいて進めていただいておりますので。ずっと進めていただきたいという要望でございます。

5 高速道路開通に伴う通過点にならないための取組に対する支援

紀北町長 本当に熊野古道関係はこちらのほうでもたくさんやっていただいて、この間も知事にも東紀州体験フェスタのような催しを要望もさせていただいたので、十分伝わっていると思います。今、シャトルバスをやっていただけてますが、あれを紀北町としては続けてほしい。特に10周年がありますので、来年度もあれを続けていただいて、紀北町はあのバスで来ていただく人に合わせて町の費用で語り部を毎週土曜日、11時45分から一人付けさせていただきます。我々としては非常にありがたいので続けていただきたいということと、もう1点、熊野古道保全の問題です。この保全の問題は、昨年も馬越峠でいろいろとお世話になって、浮石があったり、名所の一枚岩の橋が欠けたりとか、そのときに県の皆さんに大変お世話になって何度も来ていただきました。そういう中で小さな部分はできますが、お金の面じゃないんです。お金はそういう制度もあることは分かっておりますので。

ただ、今回はツヅラト峠の野面積みのところがごそと抜けたんです。こういうのになると、町では本当に石が1個浮いただけで戻すのかどうするか、県の方に何度も来ていただいてやっていたので、代行で県で直接やっていただいて、私が県へお願いして、県が国へお伺いを立てるといような形だと思います。それが県のほうで直にできるのか、あと管理していただいて、修繕とかに入っていただければと思います。お金も県で出せとかいう話ではございませんので、誤解しないでください。我々では手に負えないのです、ちょっと大きな規模ですと。例え石工さんの手配一つ取っても、我々の地域の労力ではなかなかできないと思います。そういった部分で制度的にある程度の規模を超えれば、先ほど言いましたように堤防を県代行でやっていただけてますね。そういう形も考えていただけないかと思います。これからおそろくああいう集中豪雨が出てきますと、そういうことが出てくると思いますので、そこは紀北から南もそうだと思います。

知事 シャトルバスの関係は、この前、熊野市さんと1対1対談をしたときも、地域路線も含めてご要望をいただきました。熊野古道世界遺産登録10周年の年でありまして、一方で今のシャトルバスのお金を出している形態からいくと、県の一存では決められませんので、紀北町さんや熊野市さんも含めてみんなで合意して、やるならやるという形にしたいと思いますので、そこはぜひ一緒に協議をさせていただければと思います。

それから、古道の保全の関係ですが、一定規模以上のものについての役割

分担をとということだと思imasるので、どうい手法があるのか、担当と議論をしてみたいと思imas。町長のおっしゃる趣旨はよく分かりましたので、少しお時間をいただければと思imas。

(3) 閉会あいさつ

知 事 町長、今日はどうもありがとうございました。少し遅れてしまったにもかかわらず、時間通りに終えていただいて申し訳ありませんでした。今、お話しいただきましたように、1つ目のグラウンドの関係は昨年度からスポーツコミッションの関係で紀北町さんは県内で鈴鹿市さんと共にスポーツによる集客交流をとということで、先進的にとらまえていただいている中で、県の施設も活かしてそういうのをやっていきたいとおっしゃっていただいていることだと思imasから、しっかり我々の内部でも検討したいと思っております。いずれにしましてもいろんなことでお世話になりますが、また、今申し上げたような形、いくつか協議をしていくことも宿題としてあると思imasるので、共に連携して進めていければと思imasるので、どうぞよろしく願いいたします。

本日はどうもありがとうございました。